

基本情報

指標番号
2128

名称
経口第3世代セフェム処方が経口抗菌薬全体に占める割合

分母
外来にて経口抗菌薬（抗ウイルス薬、抗真菌薬を除く）の含まれる処方が実施された人日

分子
外来にて経口第3世代セフェム処方の含まれる処方が実施された人日

指標群
感染症

意義
経口第3世代セフェムの削減は、薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの目標項目である。2020年までに（2013年比）50%削減が成果指標として掲げられている。

年度
2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022

必要データセット
外来 EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 外来 EF ファイルより、経口抗菌薬（抗ウイルス薬、抗真菌薬を除く）の含まれる処方が実施された人日を算出する。1日に複数の種類（例：セフェム系経口抗菌薬とカルバペネム系経口抗菌薬）の処方や複数回の処方が見られた場合も1人日とする。

薬価基準コード7桁	成分名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
6111002	ベンジルペニシリンベンザチン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6112001	クリンダマイシン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6112003	リンコマイシン塩酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6113001	バンコマイシン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6119001	フィダキソマイシン	内服薬					○	○	○
6121001	ピブメシリナム塩酸塩	内服薬	○	○	○				
6123003	カナマイシン一硫酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6125001	コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6126001	ポリミキシシンB硫酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6129001	セフチブテン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	
6131001	アモキシシリン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6131002	アンピシリン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6131004	バカンピシリン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	成分名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
6131005	シクラシリン	内服薬	○						
6131008	スルタミシリントシル酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132001	セファトリジンプロピレングリコール	内服薬	○						
6132002	セファレキシム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132005	セファクロル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132006	セフロキサジン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132007	セファドロキシル	内服薬	○						
6132008	セフィキシム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132009	セフテラム ピボキシル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132010	セフロキシム アキセチル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132011	セフポドキシム プロキセチル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132012	セフォチアム ヘキセチル塩酸塩	内服薬	○	○	○	○			
6132013	セフジニル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132015	セフジトレン ピボキシル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132016	セフカペン ピボキシル塩酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6135001	ホスホマイシンカルシウム水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6139001	ファロペネムナトリウム水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6139002	テビペネム ピボキシル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6139100	アモキシシリン水和物・クラブラン酸カリウム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6141001	エリスロマイシンエチルコハク酸エステル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6141002	エリスロマイシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6141004	エリスロマイシンステアリン酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6142001	スピラマイシン酢酸エステル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6145001	ジョサマイシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6145002	ジョサマイシンプロピオン酸エステル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6146001	ミデカマイシン	内服薬	○						
6146002	酢酸ミデカマイシン	内服薬	○						
6149001	ロキタマイシン	内服薬	○	○	○				
6149002	ロキシスロマイシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6149003	クラリスロマイシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6149004	アジスロマイシン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6149005	テリスロマイシン	内服薬	○						
6151001	クロラムフェニコール	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6151002	パルミチン酸クロラムフェニコール	内服薬	○						
6152002	テトラサイクリン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6152003	デメチルクロルテトラサイクリン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	成分名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
6152004	ドキシサイクリン塩酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6152005	ミノサイクリン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6191001	アンピシリン水和物・クロキサシリンナトリウム水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6199001	リファキシミン	内服薬				○	○	○	○
6212002	スルファメトキサゾール	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6213001	スルファジメトキシン	内服薬	○	○	○	○			
6219001	サラゾスルファピリジン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6219002	スルファメチゾール	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6222006	デラマニド	内服薬			○	○	○	○	○
6241001	ナリジクス酸	内服薬	○	○	○	○			
6241002	ピペミド酸水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241003	ピロミド酸	内服薬	○						
6241004	シノキサシン	内服薬	○	○	○				
6241005	ノルフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241006	オフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241007	エノキサシン	内服薬	○						
6241008	シプロフロキサシン塩酸塩	内服薬					○	○	○
6241008	塩酸シプロフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241009	塩酸ロメフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241010	トスフロキサシントシル酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241011	スパルフロキサシン	内服薬	○						
6241013	レボフロキサシン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241015	プルリフロキサシン	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241016	モキシフロキサシン塩酸塩	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241017	メシル酸ガレノキサシン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241018	シタフロキサシン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6241019	ラスクフロキサシン塩酸塩	内服薬					○	○	○
6249002	リネゾリド	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6249003	テジゾリドリン酸エステル	内服薬					○	○	○
6290100	スルファメトキサゾール・トリメトプリム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6419006	スピラマイシン	内服薬					○	○	○

2. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 外来EFファイルより、経口第3世代セフェムの含まれる処方が実施された人日を算出する。
1日に複数の薬剤処方や複数回の処方が見られた場合も1人日で集約する。

薬価基準コード7桁	成分名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
6129001	セフチブテン水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	
6132008	セフィキシム	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132009	セフテラム ピボキシル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132011	セフポドキシム プロキセチル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	成分名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
6132013	セフジニル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132015	セフジトレン ピボキシル	内服薬	○	○	○	○	○	○	○
6132016	セフカペン ピボキシル塩酸塩水和物	内服薬	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

日

結果提示時の並び順

昇順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 投与量が十分であれば適正使用となることもあるが、ごく稀と考えられ、基本的に目標値はゼロである。

参考資料

参考値

1. 経口抗菌薬全体の22%が第3世代セフェム2)

参考資料

1. 薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000120769.pdf>
2. 藤田基資. 5年で50%? 経口セフェムは削減できるか?. 小児感染免疫. 2016;28(4):302-310. <http://www.jspid.jp/journal/full/02804/028040302.pdf>.